

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	○鶴巻小学校のG I G Aスクール構想の実現に向けて、タブレット端末を有効活用した授業実践を共有する。	中 間 評 価	○昨年度の研究集録をもとに活用方法の共有をした。専門研修や授業実践の参観を計画している。	最 終 評 価
		○人権教育を重視した学習環境の構築に向けて、教職員の人権感覚を高めるとともに児童の人権意識を育成する。		○道徳授業地区公開講座にて、人権教育への理解を深めた。ユニバーサルデザインの授業を共有する。	

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>学 平仮名の読み書きについては、おおむね習得をしているが、促音、長音、拗音などになると正しく書くことが難しい。</p> <p>学 文字や文に興味をもっていて、読書や読み聞かせの習慣が身に付いてきている。国語や生活科などの学習で関連する本を自分から手に取って読もうとする児童も多い。</p> <p>学 思いや考えを表現することを楽しんでいる児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み書きは習得しているが、形や書き順に気を付けて丁寧に書くことができない児童もいる。 ・言葉遣い、促音、長音、拗音などを正しく書くことが難しい児童もいる。 ・最後までしっかりと話を聞いて理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、片仮名の書き取り練習に継続的に取り組む。また、言葉集めや言葉探しなどの活動を取り入れる。 ・教師による読み聞かせを行う。関連する図書を「おすすめ本」として紹介し読書を推進していく。 ・相手を意識して最後まで集中して話を聞くことができるよう声を掛けていく。 	
	算数	<p>学 数字の読み書きや数唱は身に付いている。10の構成について、理解できている児童が多いが、指を使って確認が必要な児童もいる。</p> <p>学 10までのたし算・ひき算については、理解できている児童が多い。文章の問題になると、落ち着いて考えることができない児童がいる。</p> <p>学 学習内容が定着するまでに時間を要する児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10の構成については、すばやく理解できるようする。 ・学習内容を定着させすることが難しい児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、ミニ計算タイムを設定し、簡単な数の構成や計算などを繰り返し確認できるようにする。 ・数の構成が十分理解できていない場面では、具体物を用いて考えさせる。 ・単元ごとにまとめのプリントを実施するが、定期的に復習を行っていく。 	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）  最終評価（2月）
2	国語	<p>学 話を聞く際には、集中して聞くとする意識は身に付いてきている。話の内容が正しく理解しているかについては、確認が必要である。</p> <p>学 書くことに対して意欲的に取り組む児童が多い。新出漢字の学習に興味をもって取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手に目を向けて、最後まで聞くことができるよう指揮する必要がある。大事なところを意識できるようする。 ・書くことへの意欲はあるが、自分の思いや考えを表現するための語彙が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く活動では、注意を喚起してから話す。話した直後に話の中心を聞いて確認して、大事な点を落とさないように聞く練習に取り組む。 ・スピーチで言葉遣いの練習に取り組む。図書の時間に「言葉のたから箱」で多くの語彙を集めさせ、書く際に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手を見て聞く指導を徹底している。注意がそれがらな数名は、名前を呼んで個別に支援している。 ・友達の集めた「言葉のたから箱」を見たり、交流したりして、語彙を豊かにする。
	算数	<p>学 繰り上がりや繰り下がりの計算では、おおむねの児童が計算の仕方を理解することができている。</p> <p>学 時刻と時間や長さなどは、理解の定着が必要である。</p> <p>学 文章問題を解くことに戸惑う児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成についての理解を習熟させる必要がある。 ・生活の中で経験が足りない児童や数感覚が身に付いていない児童がいる。 ・文章を正確に読み、題意を理解に時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し計算練習に取り組み、計算力の向上を図る。具体物を操作して、筆算の仕組みの理解を図る。 ・数を唱えたり、目盛りを読んだりする算数的活動を行い、数感覚を養う。 ・文章題の意味を理解する学習活動の時間を確保し、授業の中で、経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加減法の筆算の仕方について理解し、確実に計算できるようになった。 ・長さ、かさについては、日常生活と結び付けて、単位換算も考えていくようにする。 ・題意を図や式に表現し、言葉で説明する活動を繰り返し行い、習熟させていく。
3	国語	<p>調 学力定着度調査では、区の平均正答率と比較すると2.4ポイント、全国と比較すると1.4ポイント上回っている。領域別では、「書くこと」「読むこと」それぞれで区、全国の平均正答率を上回っている。中でも「書くこと」については、区を12ポイント、全国を6.8ポイントと大きく上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」については、区を8.2ポイント、全国を6.8ポイントとこちらは大きく下回っている。このことから、「話すこと・聞くこと」について課題がある。</p> <p>学 話を聞くとする意欲はあるが、話し手に意識を向け続けること、最後まで集中して聞くことが難しい。また、内容の理解、何を問われているのかを捉える力を身に付ける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順序立てて話したり、自分の考えを伝えたりすることに課題がある。 ・相手の話を聞くときに、最後まで集中して聞き、要点を捉えることに課題がある。 ・相手に伝わるように、簡潔にまとめて話したり、大切なことを落とさずに話したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中に「スピーチ」や「発表」の活動を取り入れ、話す機会を設定する。また、ペアやグループでの意見交換などの活動を積極的に取り入れる。 ・辞書を引く活動を多く取り入れて、語彙数を増やす。また、自分の意見を発表したり、文で表現したりする活動を多く取り入れる。話型や手本となる文を提示して、その表現を使いながら発表させることで、苦手意識を軽減していく。 ・教科書巻末の「言葉のたから箱」を活用し、その中の言葉を使って書く活動に取り組み、語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「スピーチ」の活動を多く取り入れたことや「発表」をペアやグループ、ポスターセッション等、様々な形態で行ったことにより、分かりやすく伝えることができるようになってきた。 ・新しい単元に入るときには辞書を引く活動を取り入れたことで、自分から辞書を引く習慣が付いてきた。 ・タブレット端末の活用をより充実させ、発表を行ったり、学習の成果を共有したりすることで、協働的な学びを展開し、思考力や表現力、判断力を高めるようにする。 ・話し手に注目し、集中して話が聞けるように、さらに視覚化、焦点化等の工夫をしていく。

	<p>算数</p> <p>調 学力定着度調査では、教科全体、観点別正答率、領域別正答率すべてにおいて、区と全国平均正答率を上回っている。しかし、四分位分布ではA層、B層の分布が多く良好な様子を示しているものの、D層の分布も多く、学力の二極分化が見える。学力下位層の底上げと習熟度に合わせた指導の必要がある。</p> <p>学 かけ算九九はおおむね定着しているが、繰り下がりの引き算などに間違いが多く、基本的な計算力の定着に課題がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九は定着しているものの時間がかかったり、繰り上がり、繰り下がりの計算に間違いが多く見られたりすることから、基礎的な計算の習熟に課題がある。 習熟が進んでいる児童とまだ習熟が進んでいない児童との差が大きいことから、一人一人の習熟度に合わせた指導が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末と学習ノートを併用して、個に応じて習熟を図れるようにする。 ノートの取り方の指導を徹底し、自分で学習の流れをつかんだり、振り返りに活用したりできるようにする。 基礎的な学習の習熟が図れるよう朝学習の時間等を有効に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に合わせた指導を行ったことで、児童一人一人が自分に合った学習の仕方を身に付けることができてきた。 タブレット端末で習熟を図ることにより、個に応じた学習への取り組みができてきた。 学習の流れをつかむノートの取り方の指導を行ったことで、見通しをもって取り組めるようになった。さらに学びを整理し、振り返りに生かすことができるよう指導を重ねる。 朝学習を計画的に行えるようにしたことで学習の定着を図るとともに、それを記録することで児童が自ら振り返ることができるようとした。引き続き、定着を図る。 	
4	<p>国語</p> <p>調 学力定着度調査では、全国平均正答率より4.1ポイント、区平均正答率より2.9ポイント、上回っている。領域別では、「読むこと」については、全国を7.2ポイント、「書くこと」については、区を6.2ポイント上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」については、全国を3.4ポイント、区を2.3ポイント上回ってはいるが、他の領域と比べると「話すこと、聞くこと」が課題であるといえる。</p> <p>学 話し手に意識を向け、最後まで集中して話を聞くことに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後までしっかりと聞くことができるよう指導する必要がある。 文章を書くことができる児童は多いが、要点が分かりにくく、同じようなことを繰り返し書いている。苦手意識がある児童と、ない児童との文章量や内容の差が大きい。 漢字の定着に課題が見られる。既習漢字をひらがなで書いている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語だけでなく、すべての学習において聞き方についての指導を行う。目を見るなど、聞く姿勢を常に意識させる。 大事なことをメモする練習を行う。 自分の書いた文章を読み返すよう促す。友達からの助言を受けられるようなペア・グループでの活動を行う。 漢字ドリルでの反復学習、意味調べを行い、文字指導から語彙学習へとつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことを意識できるようになってきた。相手の目を見て話を聞くことにポイントを絞り、引き続き指導していく。 話を聞きながら友達の意見などをメモすることができる児童が増えてきた。 段落の構成を確認し、友達との読み合いを行うことで、相手に伝わる文章を書くことができるよう指導していく。 新出漢字を、熟語で覚えることができるようになってきた。 	
	<p>算数</p> <p>調 学力定着度調査では、全国平均正答率より4.3ポイント上回っているが、区平均正答率より0.3ポイント下回っている。領域別にみると、「測定」についてが正答率を下回り課題があることが分かる。また、正答率分布や四分位分布から学力の差が大きいことが分かる。</p> <p>学 学力の差が大きい。掛け算九九が定着していない児童もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算のやり方は、おおむね理解しているが、時間がかかったり、正確性に欠けたりすることがある。 学力差が大きく、文章を読み、問題を正確に把握することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し、計算練習に取り組む。適宜やり方を確認し、復習をしながら進めていく。 文章問題では、キーワードを意識するとともに、何を問われているのかを確認しながら進める。 タブレット端末を活用し、視覚的な支援を増やし、理解を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習問題に取り組むことで、計算方法が身に付いた。 キーワードや問われていることを確認することで、立式することができる児童が増えた。 友達と考えを共有することや、考えを発表する活動を増やし、理解を深められるようにする。 	
5	<p>国語</p> <p>調 新宿区学力定着度調査では、全国値を3.9ポイント、区平均正答率を6.8ポイント下回っている。「読むこと」は区平均正答率を0.7ポイント上回っており、全国値を10.4ポイント上回っている。「書くこと」は全国値を4.2ポイント、区平均正答率を3.1ポイント下回っているので、まだ十分な力が身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多い。苦手な児童の多くは、語彙が少なく簡単な言葉に言い換えることができずに悩んでいることが多い。 漢字を読むことができるが、「書くこと」を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で意味調べを行う。 文章を書く前に構成や観点を整理させる。 読書活動を行い、読書カードに必ず短い感想を書かせる。 文字数を指定し、短作文を書く練習をする。 授業の導入で新出漢字の筆順、部首等の学習を行い、家庭学習では、平均2ページの書き取り課題を毎日行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文を書く前に構成や観点を整理するよう指導したところ、構成を意識して文章を書く児童が増えた。 毎朝の10分間、読書活動を行い、読書カードに必ず短い感想を書かせたところ、書くことへの苦手意識が減ってきた。 意味調べの指導が十分にできていないので、指導を続け、語彙を増やしていく。 	
	<p>算数</p> <p>調 新宿区学力定着度調査では、全国値を4.7ポイント上回っているものの、区平均正答率を0.6ポイント下回っている。領域別に見ると、「数と計算」の問題において全国値を2.1ポイント上回っているものの、区平均正答率を2.7ポイント下回っているので、復習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算を行うことはできるが、正確性に欠ける。 文章問題において見通しをもって自力解決する力に乏しい児童がいる。 個別に指導することが必要な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や家庭学習の充実を図り、タブレット端末を活用しドリルパークに繰り返し取り組む。 見通しをもって自力解決できる力を身に付けさせるため、問題を図や式に表すよさを指導していく。 習熟度別のクラス編成を行い、個に沿った指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用して、デジタルドリルに取り組んだところ、ワークテストの知識に向上が見られた。 計算の単元において、文章問題を数直線図に表すことを指導したところ、立式できる児童が増えた。 	
6	<p>国語</p> <p>調 新宿区学力定着度調査では、全国値+0.3であり、ほぼ同等である。「読むこと」に関しては全国値を5.7ポイント上回っているがその他の領域においてはほぼ同等である。しかし、「書くこと」に関しては、3.6ポイント下回っており、書くことに課題があるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを適切に文章に表すことが難しい児童が多く、書くことに重点をおいて指導する必要がある。 漢字の学習に意欲的に取り組む児童は多いが、習得状況に個人差が大きい。また、既習の漢字を日常の中で活用できていない児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語に限らず、各教科において「書く」活動を多く取り入れる。書くことが難しい児童に対しては、観点を与え、それを基に文章を組み立てさせる。 国語辞典を常備させ、意味調べや漢字調べを行う中で語彙の習得を図っていく。 ICTのタブレット端末を活用して、漢字の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動の際、観点を示すとともに、タブレット端末を使って下書き作成を行ったことにより、書くことが苦手な児童も文章量が増えてきた。また、書いた文章に推敲を加え、それを作文用紙に清書する活動を行うことで、書くことへの苦手意識が減っている。 国語の学習だけではなく、他の教科においても積極的に国語辞典を使う姿が見られ、漢字の習得も図られている。 漢字ドリルを使って新出漢字の学習をし、タブレット端末を使って繰り返し学習することで、漢字の小テストの点数も上がってきた。引き続き指導していく。 	

	<p>算数</p> <p>調 新宿区学力定着度調査では、全国値を 1.6 ポイント上回っているが、区平均よりも 5.8 ポイント下回っている。「図形」「変化と関係」においては全国値を大きく上回っているものの、「数と計算」においては全国値を 1.2 ポイント下回っており、基礎・基本の定着を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算を正確に行うことはできるが、既習事項を使って自力解決する力が不十分で課題といえる。 個人差が大きく、一斉指導では課題の解決が難しく、個別に指導が必要な児童がいる。 課題解決の過程を大切にした授業を行い、図などを使って解決していく経験を積ませることで、解決の方法を身に付けさせていく。 ICT のタブレット端末を活用して、計算力の向上を図る。 少人数指導担当と連携し、個に合った指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決が難しい児童に対して、方法を細かく示し、解決する経験を積ませたことで、苦手意識は減りつつある。 既習の定着に課題がある児童も多いので、デジタルドリルやプリント等を使って基礎基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。また、家庭との連携を図り、放課後等の時間も活用して個別に指導する。 	
<p>音楽</p>	<p>学 意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組める児童もいるが、個別の支援を必要とする児童も多い。特に、鍵盤ハーモニカやリコーダーの器楽合奏の活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの運指で、うまく穴を押さえられない。 リコーダーを吹く時の、息のコントロールができない。 鑑賞の活動で、何を書いたらよいのか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業以外でも、休み時間に個別に指導する時間を作ったり、タブレット端末や実物投影機を活用し、視覚的に分かりやすく説明したりして、スマールステップで段階的に取り組ませ、技能の定着を図っていく。 音楽の様子を表す言葉を掲示して、そのヒントを頼りに自分の思いと音楽の様子をつなげられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に個別指導を行うことで、リコーダーのタンギングができるようになったり、正しい運指で演奏できるようになったりと、少しずつ成果が出てきている児童が増えた。リコーダー以外でも、段階的に課題をクリアさせていき意欲を高めるようにしている。 タブレット端末の共有ファイルを活用し、歌や器楽の曲の練習用音源を保存しておき、放課後、家でも取り組めるようにする。
<p>図工</p>	<p>学 意欲的に取り組む児童が多い反面、支援が必要な児童もいる。発想が乏しく、課題といえる。また、技術面で基礎・基本の定着が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題に向き合えない児童がいたり、適当に仕上げようしたりする児童がいる。 自分の作品に愛情をもてない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に課題理解ができるように支援していく。 認め合い活動を通して、自分の作品に愛情をもって取り組めるようにする。 手順を視覚化して、児童が見通しをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、鑑賞の時間をタブレット端末等で行っていたが、自分たちで紹介できるやり方に変え、互いに認め合えるやり方を増やしていく。 引き続き手順を板書し、見通しをもって活動できるようにする。
<p>特支</p>	<p>学 他者との相互意思疎通が苦手な様子が見られる。</p> <p>学 流暢に読んだり、ある程度の速さで書いたり、計算したりすることが苦手な様子が見られる。</p> <p>学 集中して活動に取り組んだり、話を聞いたりすることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の未熟さ 場面や状況ごとの適切な対応力や表現力 相手意識をもたせられるようにしていく必要がある。 語彙・計算・書字の力を高められるよう指導する必要がある。 持続して取り組む力や周囲の環境への対応力を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 対人スキルに課題がある児童に対しては、前期の間に個別指導の中で、後期には小集団指導の中で意思疎通のために必要な社会適応技能を身に付けられるよう指導する。 読み書きに課題のある児童に対しては、MIM や STRAW-R 等のアセスメントツールを使って評価をしながら、児童の特性を把握し、語彙や書字・計算能力を高める指導を行う。 注意・集中・衝動性に課題がある児童については前期の間に自己認知と周囲の理解（環境調整等）を高め、後期には児童が置かれた環境の中で集中を保てるように、保護者と連携を図りながら医療機関も視野に入れて指導の計画を立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きに課題の見られる児童については実態に応じて定期的に MIM (アセスメントツール) を実施し、指導に活かしている。（隔週実施） 学期に 1 回の頻度で語彙力の向上を目的とした小集団活動に取り組んでおり、言葉の読み書きについて意欲的に取り組める児童が増えてきている。 対人関係スキルの向上を目的に、定期的に小集団活動でのソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。小集団活動後の個別指導での振り返りを教員が共通理解するとともに、児童にフィードバックすることで、ステップアップ型の小集団活動が計画できるようになってきている。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は 2 ページ以上となつてもよい。